

TOUR DE HOKKAIDO 2007 NEWS

開幕直前 2007年9月12日発行

昨年度個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	西谷 泰治	愛三工業	17:53:29
2	鈴木 真理	ミヤタ・スバル	+0:16
3	ダニエル・マッコーネル	オーストラリア	+0:25
4	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:28
5	土井 雪広	スキル・シマノ	+0:30
6	ウヰズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:32
7	エリック・ウォルバーク	カナダ	+0:42
8	清水 都貴	V A N G	+0:52
9	廣瀬 佳正	スキル・シマノ	+1:01
10	真鍋 和幸	N I P P O	+1:03
11	狩野 智也	スキル・シマノ	+1:13
12	増田 成幸	ミヤタ・スバル	+2:53
13	宮澤 崇史	V A N G	+5:00
14	岡崎 和也	N I P P O	+5:03
15	カルステン・リーゲル	ドイツ	+5:12

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	マリウス・ウヰズアック	N I P P O	94
2	ウヰズリー・サルツバーガー	オーストラリア	81
3	西谷 泰治	愛三工業	77
4	鈴木 真理	ミヤタ・スバル	72
5	宮澤 崇史	V A N G	57
6	ジェイコブ・アーカー	カナダ	40

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	スキル・シマノ	53:43:08
2	カナダ	+3:47
3	ミヤタ・スバル	+5:57
4	V A N G	+8:16
5	愛三工業	+9:56
6	オーストラリア	+10:41

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井 雪広	スキル・シマノ	26
2	辻 善光	立命館大学	19
3	マーシュ・クーパー	カナダ	12
4	中島 康晴	鹿屋体育大学	10
5	普久原 奨	ブリヂストン・アンカー	9
6	エリック・ウォルバーク	カナダ	8

テキストライブ配信中!

大会期間中、ツール・ド・北海道のレースの様態をテキストライブで配信します。携帯可。



PC: <http://www.cyclingtime.com>
携帯: <http://mobile.cyclingtime.com>



Course Review 3年に1度の山岳ステージが続く道央を駆け抜ける

今年で21回目を迎えるツール・ド・北海道国際大会は、小樽市をスタートし、北海道南西部を舞台に、5日間、6ステージ、総走行距離677kmで争われる。

大会初日は105kmのロードレースと1.3kmの個人タイムトライアルの2ステージ。第1ステージは小樽市総合博物館前をスタートし、西へ。積丹半島の中央部を横切るように駆け上がり、トーマル峠のKOM(山岳ポイント)を越え、日本海へと下ってゴールの岩内町運動公園を目指す。第1ステージのフィニッシュは、大集団のゴールプリントが予想される。

同日開催の第2ステージは岩内運動公園内を走る個人タイムトライアル。直角カーブを含む直線の少ないレイアウトのため、このステージでの争いは秒差になるのが必至だ。



ツール・ド・北海道国際大会の3賞ジャージ。左から、山岳賞、個人総合時間賞、ポイント賞。このジャージをかけて熱戦が繰り広げられる

第3ステージは共和町役場前をスタート。最初の20kmで新見峠のKOMまで上ったのち、同じく約20kmを下り日本海へと向かう。海岸線の10を超えるトンネルをくぐり、今金町総合体育館前でフィニッシュとなる174km。平坦基調ではあるが、向かい風になれば一変厳し

いステージとなる。

第4ステージは長万部町役場前をスタートする164km。渡島半島東側の内浦湾沿いを進み、一路北へと針路を変えて50.5km地点でKOM。ニセコ高原の麓をかすめ、ウィンザーホテル手前で2つ目のKOM。ここから洞爺湖を目指して一気に下り、伊達市歴史の杜へゴールする。

第5ステージは172km、厳しい山岳ステージでもあり、最大の山場となる。室蘭市入江運動公園をスタートし、今大会最高峰のKOM、オロフレ峠へと上る。下った先の支笏湖を3分の2周ほどし、最後のKOMとなる金山覆道へ。残りは下り基調で、ゴールの札幌市真駒内屋外競技場へとひた走る。この難コースを制するのは真の実力者、そして個人総合時間賞獲得にもっとも重要なレースとなる。

Team Review 西谷連覇なるか、NIPPO 梅丹、シマノが栄誉獲得なるか?

今年も国内外20チーム、計99人がエントリー。海外招待チームはオーストラリア、イラン、チャイニーズタイペイ、韓国、ドイツの5チーム。

オーストラリアはUCIプロフェッショナル・コンチネンタルチームで、現オーストラリアチャンピオンのラプトーンが所属するドラパック・ポルシェが出場。韓国は04年にポイント賞を獲得したパクが韓国チャンピオンとして参加する。ドイツはザクセン州地域選抜、その他はナショナルチームという構成だ。

国内チームでは、ヨーロッパを拠点に今季10勝を挙げ、日本チャンピオンの新城幸也がエースを務めるNIPPO 梅丹

に注目が集まる。また、UCIプロツアーを経験してきた土井雪広を主軸とするシマノがこれに対抗する。そして愛三工業は、昨年個人総合優勝の西谷泰治と山岳に強い別府匠で連覇を狙う。

その他、多くのヨーロッパ遠征をこなしているBSアンカー、ロードレース解説者としておなじみの栗村修監督率いるチームミヤタ、ベテラン三船雅彦、橋川健が所属するマトリックスパワータグ、国内クラブチームの代表的存在のパールイズミなど国内有力チームが参加。

また、地元北海道からは厳しい予選を勝ち抜いた代表選手たちで構成された北海道地域選抜、さらに鹿屋体育大

学、日本大学、順天堂大学、法政大学、中央大学、早稲田大学、北海道大学が出場し、レースを熱くする。



昨年リーダージャージを守りきった愛三工業の連覇なるか、牙城を崩す新たなチームがでるのか



TOUR DE HOKKAIDO

<http://www.tour-de-hokkaido.or.jp>